

アクティビティ・ワーカー資格取得への一考察

－「アクティビティ・サービス」認識度調査－

奈良文化女子短期大学 福祉学科 田 中 佑 子

1. はじめに

今年度の田中ゼミは「アクティビティ・サービス」という言葉の認識度を再調査した。

4年前、2001（平成13）年の田中ゼミで《アクティビティ（サービス）という言葉を知っていますか》と認知度を問いつける調査をしたが、福祉学科はともかく他学科ではほとんど「いいえ」の答だった。当時は当福祉学科においても、まだアクティビティ・サービス総論は開講されていなかったが2回生の課題学習ゼミでは「アクティビティ」という言葉が飛び交い、介護技術の教本には当初より、その社会生活の維持拡大の技法の章に「アクティビティ」が紹介されていた。しかしそれでも「はい」と答えたのは1回生は30%、2回生でも50%に満たなかった。非常に馴染みの薄い言葉であることを改めて知らしめられた思いがした結果だった。（2001年紀要32号に報告）

実は、筆者も1998（平成10）年福祉学科に入職した次の年にこの言葉に初めて出会った。

「看護」ではない「介護」のケアのプロ性を求める中で出会った。

アクティビティケア（Activity Care）は痴呆高齢者（認知症）への「新しいケア」確立への切り札となろうと言った先達もいた。アクティビティケア（Activity Care）は正に介護福祉士の重要な「ケアの方向」の一つであり、介護ケアの「理念」の一つと思われた。

1期生が初の施設実習を終えた後、学生たちのモチベーション（motivation）を高めようとゼミを始めることになったとき、迷わず私はこの「アクティビティケア」をテーマとし、7期生の今日まで続けている。2001年2月、当時福祉学科長の忠政敏子教授と筆者はアクティビティ・ワーカー資格、教員資格取得。続く2002年現福祉学科長福原信子教授、「福祉音楽論」担当伏見強教授、当時の教務課長唐津浩氏の3名も研修を済ませ教員資格を取り、2002年7月1日、NPOアクティビティ・サービス協議会よりアクティビティ・ワーカー「養成指定施設」の認定を受けた。翌年、2003（平成15）年よりワーカー資格取得へ向けて授業展開を始めた。しかし今春、当福祉学科6期生に至って、初の55名の「アクティビティ・ワーカー」を卒業させた。

やっとここまでできたとの思いである。しかし、アメリカ等の先進の諸外国のようにアクティビティ・ワーカーの設置義務の法は我が国では未だ無く、ごく一部の施設を除いてはアクティビティ・ワーカーを専門職としての採用は考えられていないのが現状である。

当学初の今春の卒業生もアクティビティ・ワーカーをメインに就職していった学生はいなかった。アクティビティ・ワーカーの話を熱く語ろうとしても、「えっ、それ何に？..」と冷たい反応に出会うことも稀でなく、広く世間に承認されている職種とは言えないのが現実である。

2 アンケート調査

アクティビティ・サービスはまだまだ認識度の低い言葉であろうが、4年の歳月が流れ、この春には初のアクティビティ・ワーカーも巣立った。少しは認識度も上がっているのではないかと、との期待をこめての4年前と同じ認識度を再調査し、その動向を考察したいとの思いから取りかかった。

アンケート用紙の配付 (総数 655人)

	(配付)	(回収)	(回収率)
総 数	655	493	75%
①環境教養1回生	6	6	100%
②環境教養2回生	6	6	100%
③幼児教育1回生	87	75	86%
④幼児教育2回生	87	45	51%
⑤第3部幼1回生	79	62	78%
⑥第3部幼2回生	54	27	50%
⑦第3部幼3回生	48	18	37%
⑧衛生看護1回生	88	83	94%
⑨衛生看護2回生	111	89	80%
⑩福祉学科1回生	47	43	91%
⑪福祉学科2回生	42	39	92%

《資料1》

1. 調査対象と方法

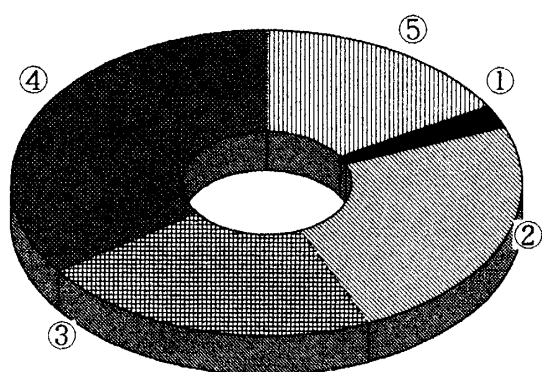
奈良文化女子短期大学の在学全学科を対象として、アンケート用紙を手配り配付～回収によって行った。AGHの先生方には大変お世話になりましたことを謹んでお礼申し上げます。

今年の田中ゼミメンバーは総勢8名人。

アンケート用紙配付には、担当の中村由香、西尾友里、萩野由佳の3人を中心に総勢で取りかかっていた。

学生たちはその結果をコンピュータ処理し今年の田中ゼミの詳録にまとめ9月10日の発表会に報告した。このレポートは少し切り口を変え、アクティビティ・ワーカー資格取得について考察したものである。

アンケート集計 有効対象総数 (493人)



- ①環境教養 12人
- ②幼児教育 120人
- ③第3部幼教 107人
- ④衛生看護 172人
- ⑤福祉学科 82人

《資料2》

◇アンケートの対象の状況は《資料1》
《資料2》を参照ください。

2005年5月

奈良文化女子短期大学 在学生

配付総数 655人

回収総数 493人

回収率 75.3%

◇アンケートの主な内容

- ・「アクティビティ・サービス」
「レクリエーション」いう言葉を、
聞いたことがありますか。
- ・どのようなものだと思いますか。

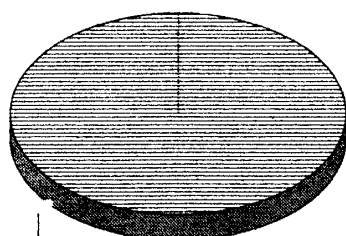
【調査事項1】

「アクティビティ・サービス」と言う言葉を聞いたことがありますか
 [■はい ■いいえ ■無回答]

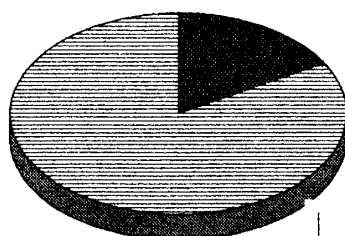
2005年 5月

奈良文化女子短期大学学生 493名

《資料3》

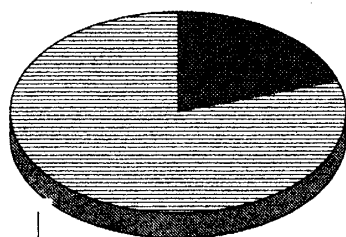


1 回生 回答者 6 名

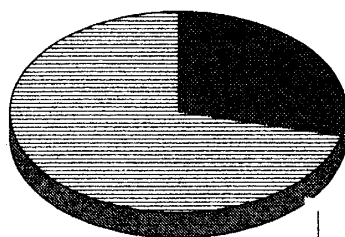


2 回生 回答者 6 名

環境教養学科

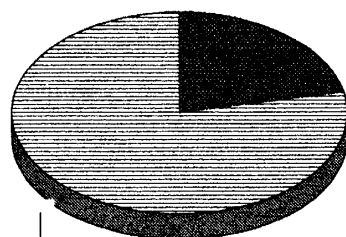


1 回生 回答者 75 名

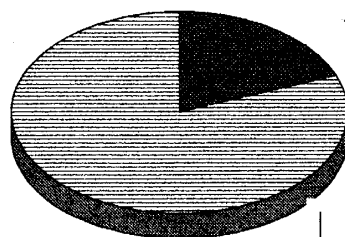


2 回生 回答者 45 名

幼児教育学科

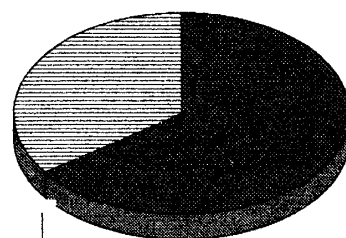


1 回生 回答者 83 名

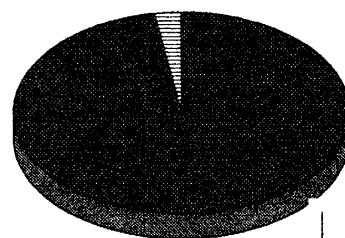


2 回生 回答者 89 名

衛生看護学科

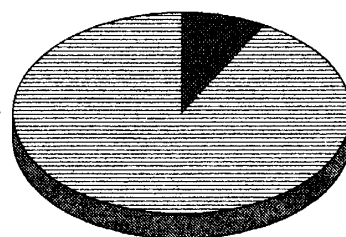


1 回生 回答者 43 名

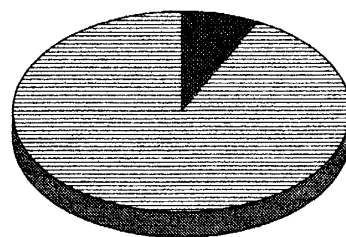


2 回生 回答者 39 名

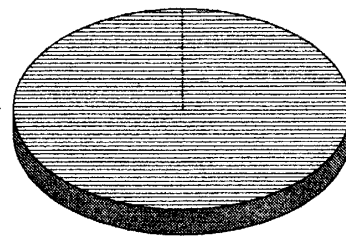
福祉学科



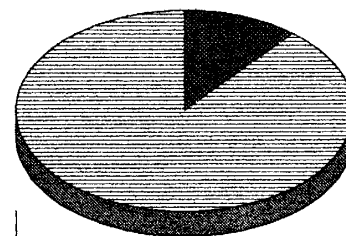
1 回生 回答者 62 名



2 回生 回答者 27 名



3 回生 回答者 18 名



オープンキャンパス高校生

2005- 7 -30 回答者 12 名

福祉 A O 入試セミナー

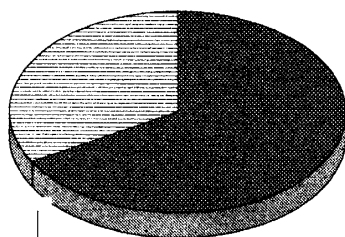
【調査事項 2】

「レクリエーション」という言葉を聞いたことがありますか
 [■はい ■いいえ ■無回答]

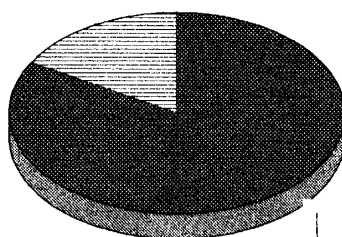
2005 年 5 月

奈良文化女子短期大学学生 493名

《資料 4》

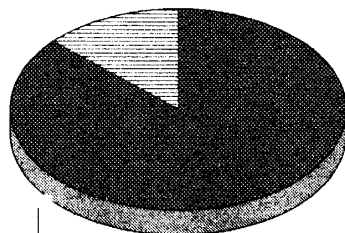


1 回生 回答者 6 名

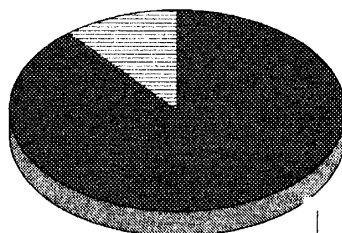


2 回生 回答者 6 名

環境教養学科

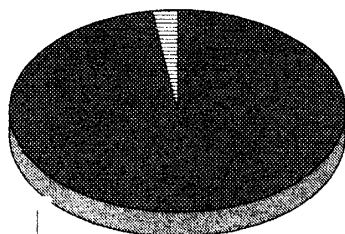


1 回生 回答者 75 名

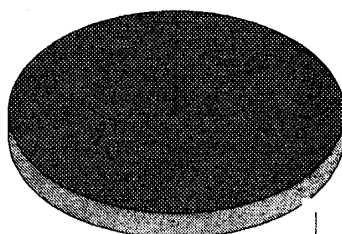


2 回生 回答者 45 名

幼児教育学科

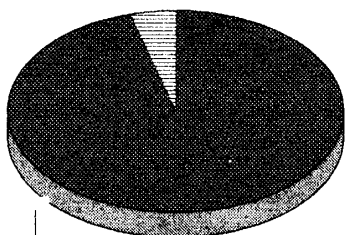


1 回生 回答者 83 名

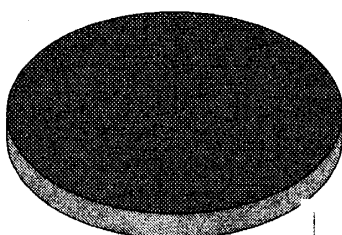


2 回生 回答者 89 名

衛生看護学科

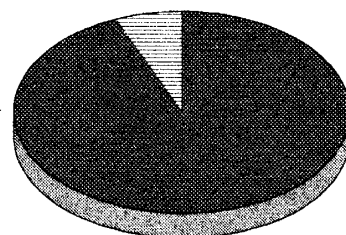


1 回生 回答者 43 名



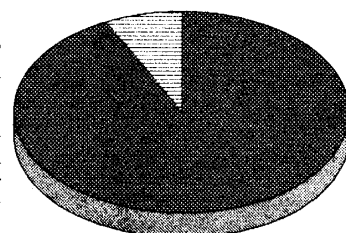
2 回生 回答者 39 名

福祉学科

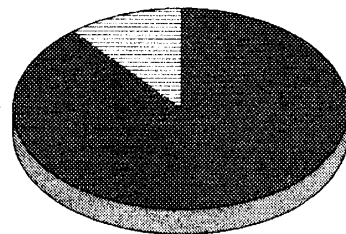


1 回生 回答者 62 名

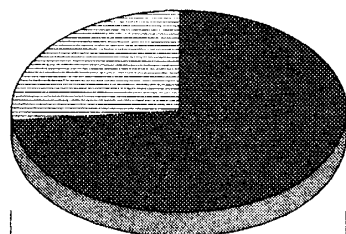
第 3 部
幼児教育学科



2 回生 回答者 27 名



3 回生 回答者 18 名



オープンキャンパス高校生

2005- 7 -30 回答者 12 名

福祉 A O 入試セミナー

2. 「アクティビティ・サービス」という言葉を聞いたことがありますか。

《資料3》について

◇ 「はい」と答えた人数を、クラス別にパーセントで示した円グラフである。

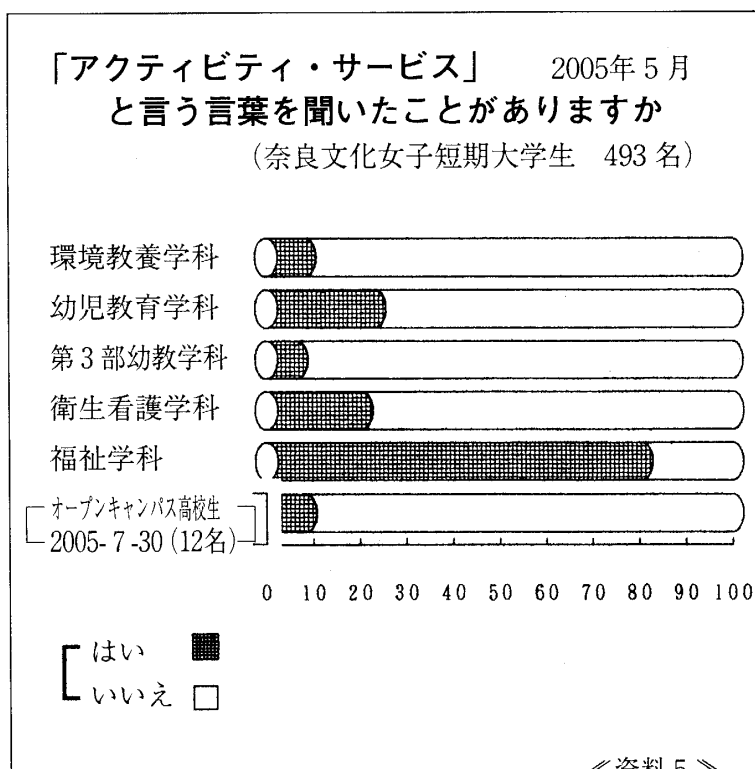
福祉学科とその他の学科の大きな差異が現れている。4年前もそうであったが、その差はあまり縮まっていない。今日なお、市民権のないままとと言える。即ち一般的には非常に馴染みの薄い言葉である厳然たる現象と受け止めるべきであろう。

◇ 福祉学科1回生と2回生の差が示すもの。

他学科では1, 2回生の差は一般にはないと言っている。しかし福祉学科ではハッキリと差が現れている。入学してはじめて出会う言葉というの証であると受け止めるべきと思う。

「アクティビティ・サービス総論」は1回生より開講しているが、今回の調査が入学して間もない時期で「初めて知った。知らなかった」の答えが含まれていると考えられる。

◇ 7月30日オープンキャンパスに参加し、福祉学科のAO入試セミナーに参加した12名の高校生にもアンケートをした。結果は《資料3》《資料5》に示すとおり他学科の学生たちと殆ど変わらない。学校案内に当学福祉学科では「アクティビティ・ワーカー資格」も取得できます。とPRしたつもりなのに、とんな仕事をする人かよく分からない。と答えた。



《資料5》について

◇ 「はい」と答えた人数を学科別にパーセントで示した。

福祉学科と他学科の差は入学後のカリキュラムによるもので、一般常識としては、他学科や高校生の数字と受け止めるべきであろう。

◇ アクティビティ・ワーカーが専門職として市民権を得て、法的にも、きちっと設置義務化され、その活躍が期待されるまでには、まだまだ時間がかかりそうである。

◇ 福祉学科の満杯の授業時間を更にふくらませても、「アクティビティ・ワーカー資格取得」を選択したのは、本当に正しい選択であったのか、その是非を問わねばならないのかもしれない。

3. 「レクリエーション」という言葉を聞いたことがありますか

《資料4》について

◇「はい」と答えた人数を、クラス別にパーセントで示した円グラフである。

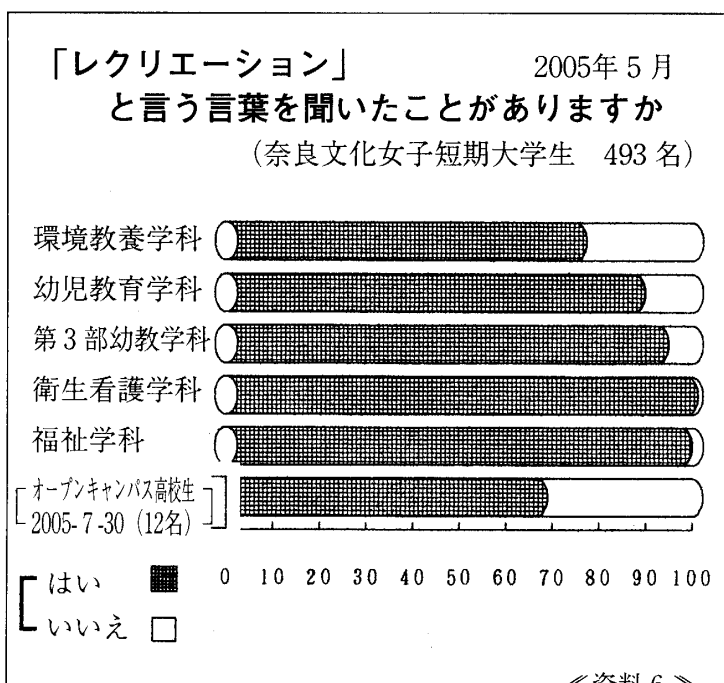
どのクラスも過半数以上殆どが「はい」と答えている。既に常識化された言葉と言える。

◇高校生よりも、1回生よりも、2回生に進んだ方が「はい」と答えた人数がどの学科も多い。

これは、当学の環境教養学科、幼児教育学科、衛生看護学科、福祉学科それぞれ学科の特性からもレクリエーションは大切な教科課目の一つであることを表していると思う。

《資料6》について

◇「はい」と答えた人数を学科別にパーセントで示した。どの学科も「はい」との人数が多いが、しかし、学科別差も少しある。



いが、しかし、学科別差も少しある。

衛生看護学科と福祉学科は共に人間の生活をケアすることを職務とする。生活の質（QOL：Quality of life）の向上を願いながら対象者の毎日の生活をその人らしく、快適に整えようとケアする看護師、介護福祉士にとってレクリエーションは更に大切な教課目といえる。

◇「ケア」の立場でいうアクティビティとレクリエーションとは、ほぼ同義語である。我が国で今、一般に理解されているようなレクリエーション（歌って、踊って、ゲームして）ではケアを受けながら生活する人、老衰して動きもままならぬ人々は楽しめない。この人々のために、もっとレクリエーションを楽しんで頂きたい。福祉施設を利用する全ての人々のためのレクリエーションとは何か、真剣に取り組んだ結果、従来一般に捉えられているゲームや歌や踊りでなく、生活全般に視野を広げて「生活の快」を援助しようと。更

アクティビティ・サービスとは

福祉サービス利用者に対して、少しでも「いきいき」と快く生活をしていただくことを願い、利用者への「心身の活性化」「生活の活性化」を支援することをいいます。

NPOアクティビティ・サービス協議会

にそれを明確に主張するため、言葉も変えてスタートしたと聞いている。

アクティビティ・サービスは『福祉におけるレクリエーションの前進』である。と

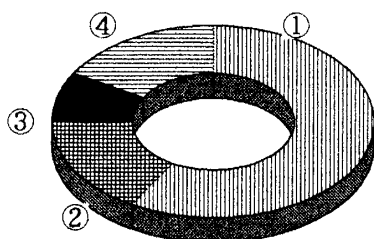
【調査事項 3】

「アクティビティ・サービス」とはどのようなものだと思いますか（複数回答） 2005年 5 月
奈良文化女子短期大学学生 493名

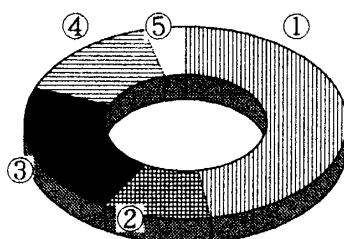
《資料 7》《資料 8》

学科別科別 アクティビティ・サービスのイメージ

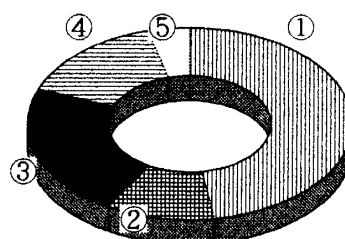
◇環境教養学科



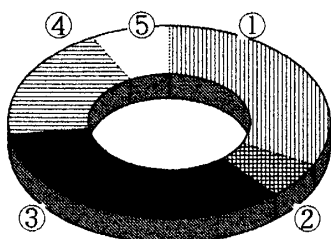
◇幼児教育学科



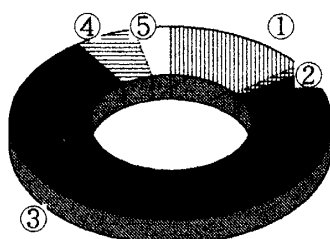
◇第 3 部 幼児教育学科



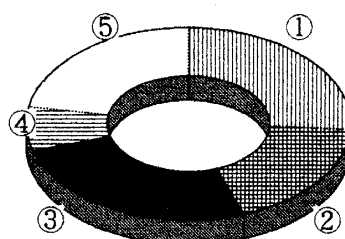
◇衛生看護学科



◇福祉学科



◇オープンキャンパス 高校生



- ① 生活援助 ③ 心身・生活の活性化 ⑤ その他
② リハビリ ④ ゲーム・歌・遊び

《資料 7》

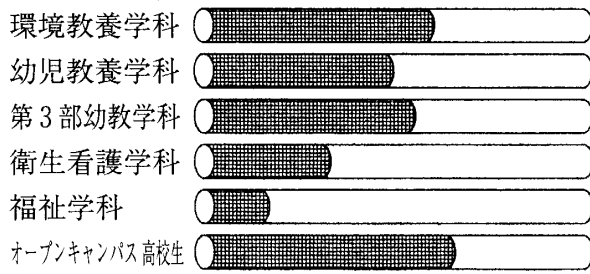
3. アクティビティ・サービスやレクリエーションのイメージ

《資料 7》《資料 8》はアクティビティ・サービスのイメージをクラス別、学科別にまとめた。
福祉学科は当然「心身・生活の活性化」を第 1 に上げている。環境教養学科や幼児教養学科
が「生活援助」を第 1 に上げているのは福祉に関係がありそうな言葉とすることらしい。

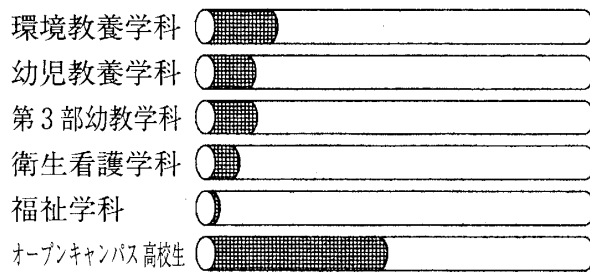
項目毎の学科別イメージ アクティビティ・サービス

2005年 5月

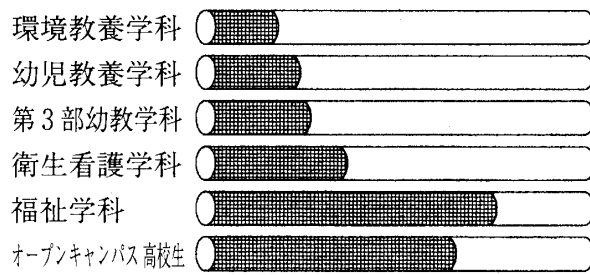
①生活援助 ■ はい □ いいえ ■ 無回答



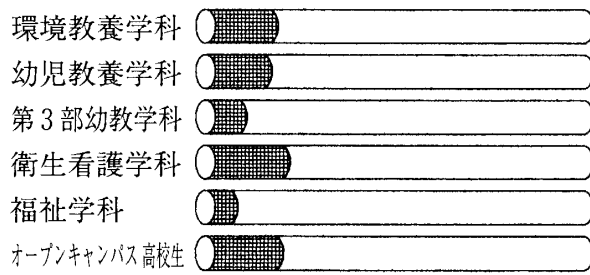
②リハビリテーション



③心身・生活の活性化



④ゲーム・歌・遊び



《資料8》

《資料9》はレクリエーションについての、学科別の円グラフ、《資料10》は学科別項目別帯グラフである。

一般にはレクリエーションは趣味・娯楽・遊びととらえられていると思う。環境教養学科とオープンキャンパスの高校生はそう答えている。しかし他の学科では意外と少ない。「レクリエーションはコミュニケーションなり」と学生たちは答えている。何れも、人間を相手にする専門職を目指す学生たちである。

「レクリエーションはコミュニケーションを取るための大切な糸口になる。」「レクリエーションの中で良い人間関係が築ける。」と日頃の実習現場の体験がそう言わしめるのであらうと微笑ましく思える。

3. 考察

当学福祉学科立ち上げと同時に教員の末席に入職業してきて8年の年月が流れた。その僅か8年の間にも福祉を取り巻く環境は変動を繰り返し、今また大きく変わろうとしている。

国は昭和62年、高齢化社会へ突入しようとしている我が国に、「社会福祉士及び介護福祉士法」によって新しく国家免許を持ったケアのプロ、介護福祉士を、介護の担い手として期待を込めて登場させた。

奈良文化女子短期大学も平成10年、こうした時代の要請に応え「こころやさしい・・・愛のある介護」を旗印に7学科めとして「福祉学科」を誕生させたと聞く。時代は確実に高齢化に進み、介護のための労働の厳しさ、認知症の人とそれを支える人々の毎日の生活の実態が隠しようもなく

【調査事項 4】

レクリエーション」とはどのようなものだと思いますか（複数回答）

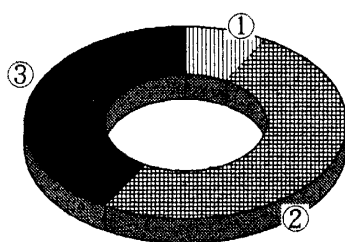
2005 年 5 月

奈良文化女子短期大学学生 493名

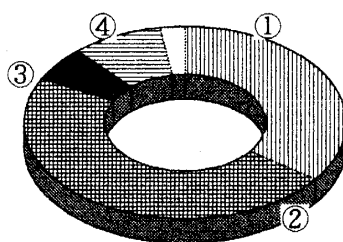
《資料 9》《資料10》

学科別 レクリエーションのイメージ

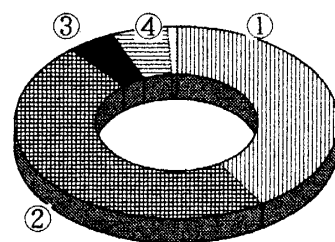
◇環境教養学科



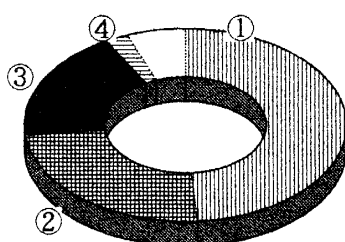
◇幼児教育学科



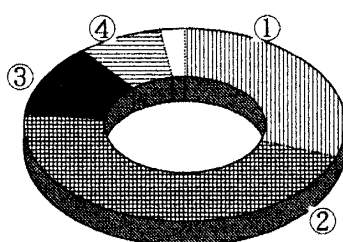
◇第3部 幼児教育学科



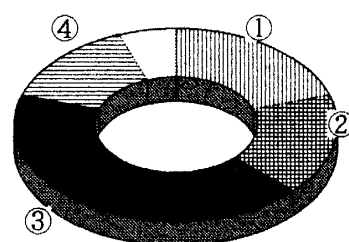
◇衛生看護学科



◇福祉学科



◇オープンキャンパス 高校生



① 遊び

③ 趣味・娯楽

⑤ その他

② コミュニケーション

④ 生活援助

《資料 9》

多く人の目に触れるになり、介護は大変な現実として人々に認識されるようになったと言える。2000年介護保険がスタート。だがそれもすぐ経済的問題、他諸問題にぶつかっている。

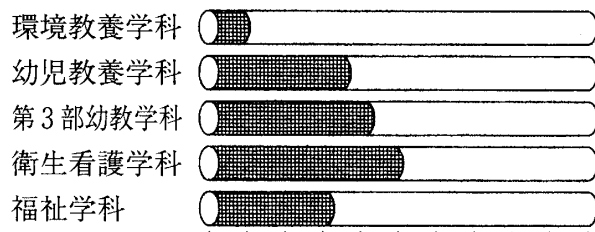
「介護の質」向上への世の中の要望も高まり、国は国家試験の実技試験の免除対応になる介護技術講習会を提示し、本年度より全国的に開催させた。当学の教員もその渦中にあり、8月の3週間を提供した。1クール32時間6万円、そんなに高額なのに、受講生は殺到した。福祉を取り巻く環境の動きの一つをビジュアル（visual）に表した現象と思われた。

項目別の学科

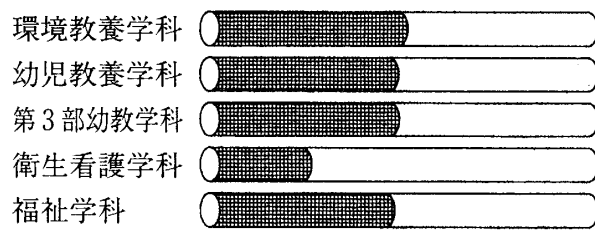
2005年 5 月

レクリエーションのイメージ

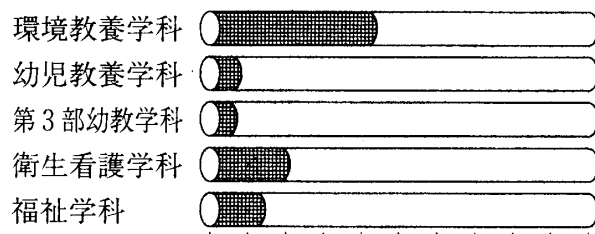
①ゲーム・歌・遊び ■ はい □ いいえ ■ 無回答



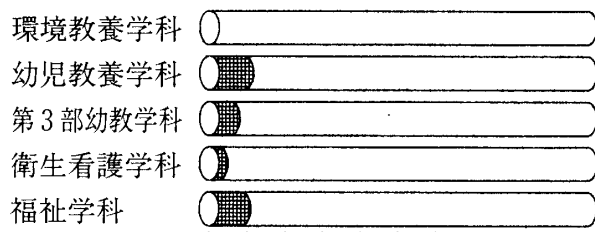
②コミュニケーション



③娯楽・趣味



④生活援助



《資料10》

今改めて、介護福祉士に寄せられる「介護の質」への期待の重さを感じる今日この頃である。

介護福祉士養成施設はこの社会のニーズの要請に応えるべく、質の高い人材を育成する努力をしている。当福祉学科もスタート時の「こころやさしい……愛のあの介護」の旗印を強化修正し「暖かな人間性や広い視野、豊かな感性が生きる優れた介護をめざして」さらに「人間性豊かで、介護の実践に貢献でいる専門的知識はもちろんのこと介護福祉をとりまく環境の変化にも対応しうる自主性を持った感性豊かな介護福祉士」を育てたいと進んできた。

利用者が期待する「生き甲斐…」「楽しさ…」「快さ…」を生活経験の乏しい学生がそのニーズを読み取り、生活の活性化へむけて援助するか。利用者一人一人にとっての well being とは何かを判断する力を養うのにはどうすれば良いのか。実際の教育課程の中のどこでどのようにして、その理念と技術を育てれば良いのか、大きな課題として浮かびあがってきたのである。

当福祉学科、我々介護担当の教員はその一つの試みとして「高齢者を理解する」を中心テーマの「課題学習ゼミ」として取り組んできた（2004年紀要35号で報告）。「アクティビティ・ワーカー資格取得」への授業展開も正に、その試みの一つとして始め、今春初のアクティビティ・ワーカー資格登録をも併せ済ませた55名の介護福祉士を卒業させた。

「ICF（International Classification of Functioning Disability and Health）国際生活機能分類の考えを踏まえて！」「目標指向的介護の方向で！」「日常生活の質の保障を！」等々、介護のキャッチフレーズも新しくなり、介護は単に、日常生活動作（ADL：activities of daily living）を援助し生活を整えるだけでなく、生活の質（QOL：Quality of life）の向上を願い、余暇生活の時間を大切に、その人らしい生き甲斐のある生活へと介護過程を展開することと期待されるようになった。

当初より国は介護福祉士の基礎教養にはレクリエーションは大切として「レクリエーション指導法」2000年よりは「レクリエーション活動援助法」を必修科目として位置づけていたことは周知のところである。福祉の現場でこれらの人々への真のレクリエーションとは何か、何を援助すべきかを深く探る中で、アクティビティ・サービスの理念を構築し、専門職としての「アクティビティ・ワーカー」を育てて託そうとしてきた業務は、今や介護福祉士の業務の中心に含まれるようになったと考えられる。

4. おわりに

アクティビティ・ワーカーに期待される業務をどの職種に担わせるようになるのかは別として、専任のポストが必要であろう。我が国はそれを介護福祉士の免許を持つものに当たらせるのか、アクティビティ・ワーカー資格取得者に当たらせるのか、今後の動向を待たなければならない。

当奈良文化女子短期大学の介護福祉士資格取得を目指す学生が「アクティビティ・ワーカー」の資格取得も必要か否かの結論は今後の方にバトンタッチするとして、現在、当福祉学科で追加して授業展開している「アクティビティ・サービス総論」「課題学習ゼミ（高齢者を理解する）」は当学が掲げる「高齢社会のニーズに応えうる、才能豊かな、介護の現場で即戦力として活躍できる人材育成」には欠かせない重要な授業教科目と考えて良いと思う。

参考・引用文献

- ・ アクティビティ・サービス研究協議会（NPO アクティビティ・サービス協議会）編集
「アクティビティ・サービス総論」 中央法規 2000
「A. S. N. (アクティビティ・サービス・ニュース)」
- ・ 垣内芳子・廣池利邦・柏木美和子著「アクティビティ実践ガイド」 日総研 2001
- ・ 受託団体財ばけ予防協会 痴呆高齢者ケアプラン査定事業
「アクティビティケア実態調査」他調査報告書 5冊 1996～2000
- ・ 財日本レクリエーション協会監修：福祉レクリエーションシリーズⅠ、Ⅱ、Ⅲ。
Ⅰ、「福祉レクリエーション総論」 蘭田碩哉、千葉和夫、他 中央法規 2001

- ・ 村尾壽美・忠政敏子・福原信子・田中佑子・高桑慧子 奈良文化女子短期大学 紀要31号 2000
「実習指導（演習）の展開～グループ別課題研究の試み～」
- ・ 田中佑子・阿南國子・高桑慧子・福原信子・伏見強共著
「介護福祉への学習意欲を高めるための教育方法
～「実習指導」ゼミ方式を取り入れて～」 奈良文化女子短期大学 紀要35号 2004

- ・ 田中佑子「アクティビティケアの一考察」 奈良文化女子短期大学 紀要30号 1999
- ・ 忠政敏子、田中佑子共著 奈良文化女子短期大学 紀要31号 2000
「特別養護老人ホームの介護現況における～音楽療法の効用について考察する～」
- ・ 田中佑子、忠政敏子共著 奈良文化女子短期大学 紀要32号 2001
「介護福祉士教育に於ける今日的課題～アクティビティケア～」
- ・ 田中佑子著 奈良文化女子短期大学 紀要33号 2002
「介護福祉士教育に於ける今日的課題～アクティビティ・サービス～（2）」
奈良文化女子短期大学 紀要34号 2003

- ・ 奈良文化女子短期大学福祉学科「課題学習」研究抄録 1 2 3 4 5 6 7 期生 7冊 1999～2005